



未来

令和8年7月17日発行

第4号
10 Years
ANNIVERSARY

都立城東特別支援学校長
秋本 友美

安全・安心を基盤に、学びの深化を

校長 秋本 友美

本日、「新しい通知表」を子供たちに授与しました。

「子供たちの学びたい!」の意欲を掻き立てるため、バージョンアップした通知表。

〇〇年前、私自身、小学校の通知表を受け取り、恐る恐る開いた時の「あっ……」や「やった♪」と言う想いをしたものです。(私は、江東区立亀高小学校の卒業生です)

持ち帰った通知表は、御家庭で一緒に振り返り・話題にいただけますと幸いです。

さて、本日の終業式等、子供たちや教職員に話したことを少し御紹介します。

- ①始業式で校長先生が話した「健康・学習・友達を大切にしよう」は、できたかな?
 - ②「一学期、一人一人ががんばったことを振り返ろう」
 - ③「皆さんを支えてくれた人(スクールバス・給食に関わる人たち・先生・企画室の人・そしてお家の方)にありがとうを言おう」
 - ④「イヤだな」と思うことがあったら、まわりの大人に話してくださいね」
- 「人権」「意思表示」「コミュニケーション」、いずれも「教育のベース」です。

💡 R8学校経営計画に、「人権尊重の精神に基づく教育活動の推進」を示した所以です。

「SOSの出し方に関する教育」の推進(自殺総合対策大綱(令和4年10月14日閣議決定))

- (1) いじめや体罰、不適切な指導等のない人権に配慮した教育の徹底及び早期発見・早期対応・未然防止に関する組織的な取組の充実
- (2) 他者への思いやりなど、豊かな心を一人ひとりの子供たちに育む道德教育の推進
- (3) 自己表出・自己決定・自己選択の力を育み、「学びを人生や社会に生かそうとする力」の醸成

「身近にいる信頼できる大人に、SOSを出すことができるようにする。」そして、

「身近にいる大人や友達がSOSを受け止め、支援できるようにする。」

「他者への思いやり」は子供だけではなく、教職員同士、教員と保護者の関係も然り。

「相手を重んじて、受け止めようとする力」とも言えます。

改めて、互いの良さを重んじ合う姿を、まずは大人が示していきたいですね。

最後に7月1日は「国民安全の日」。国民が日常生活のあらゆる面において、施設や行動の安全を省みて、その安全確保に留意し、これを習慣化する気運を高め、安全を脅かす災害の発生の防止を図ることが目的に制定されたそうです。

夏季休業中に「不審者侵入訓練」「9月総合防災訓練のプレ訓練」等、形骸化させない、かつ、危機意識を高めるための訓練を全教職員及び外部委員も招へいし、行います。

訓練の様子は、Xなどで公開していきます。

御家庭におかれましても、一学期の学びを御家庭でも生かしていただいたり、この期間ならではの様々な体験、防災への備えをしていただいたりして、充実した夏季休業になることを願っています。

お互いを大切にするアンケート・SOSを発信することの大切さ

生活安全ライン主任教諭 間中千穂

本校では、いじめの未然防止、早期発見、早期対応及び重大事態への対応を目的として、「お互いを大切にするアンケート」を年3回実施しています。昨年度の結果は、回を重ねる中で、自分でアンケートに答える児童・生徒の割合が、16%から27%へと増加しました。アンケートへの見通しがもてるようになり、安心して回答できる児童・生徒が増えていると捉えています。また、「学校で困ったことや嫌なことはありますか」という質問に対して、「ある」との回答は、第1回の9%から第3回は11%とわずかに増加しました。これは、**児童・生徒が自分の思いや困り感を表出できるようになってきた表れ**と捉えています。回答内容は、いじめ防止対策委員会にて即時に対応し、個別の支援や指導につなげています。単発で終わらせず日々の子どもたちの様子を丁寧に見取り、指導に生かしています。

また、「いじめ・体罰・SOS発信」対策会議を週1回程度定期的に行い、子どもたちの様子を共有しています。軽微な変化も見逃さず、いじめやその兆候だけではない、困り感を早期に発見し、組織的に解決を図る体制を整えています。さらに、今年度から、スクールカウンセラーを活用した「SOSを表出することの大切さ」についての授業に取り組み始めました。5月末、SOSの表出に関する授業を4年生で実施しました。授業では気持ちの種類や困ったときの伝え方について、イラストやパネルを用いて分かりやすく提示し、具体的な場面を想定しながら学習しました。児童が自分の気持ちを教員や保護者等に言葉やサインで伝えることの大切さに気付く機会となりました。今後も、このような取組を通して、**児童・生徒が安心して思いを表出できる環境づくり**を進めていきたいと考えています。

災害時を意識した避難訓練

防災ライン主任教諭 猿渡 歩

今年度は、10月に総合防災訓練を行います。今まで中学部1年生のみ引き渡し訓練を行っていましたが、今年度は、全学年で実施します。引き渡しには、引き渡しカード（オレンジカード）が必要です。全校児童・生徒へ配布しております。御確認をお願いします。

また、今年度、毎月行っている避難訓練は、「**有事の際のリアルな想定**」でイメージや考えをめぐらせた取組を行っています。

- ① 集合時の学年表示なし：訓練時、目印としてカラーコーンや学年表示をせずとも、より災害時を意識し、どんな場所でも学年を意識した集まりができるようにします。
- ② 災害時の備蓄品等の対応：校内には、非常食や水の貯蓄が3日分あります。また、昇降口前に設置した自動販売機は、災害時に無償又はどなたでも利用できます。



小学部2年生避難訓練の様子

小学部2学年主任 峰村 美佳子

昨年度から繰り返し避難訓練に取り組むことで、**苦手だったヘルメットが被れるようになった児童や友達と一緒に手つないで避難ができるようになった児童が増えてきました。**

避難時、様々な理由ですぐに移動ができないときには、避難が完了した学級から応援に行くなど、学年内で協力して有事に備えています。



【未来後記】

お互いを大切にするとは、相手の思いや考えを尊重し、困ったときには声を掛け合い、支え合うことです。

SOSを発信するための大前提として、子供同士だけでなく、教職員や保護者の皆様も含めて、誰もが安心して思いや気持ちを伝えられる信頼関係が重要だと考えます。「相手の話を否定せず、最後まで聴く」「失敗や悩みを打ち明けられたときに責めずに受け止める」「自分と異なる考え方や特性を認める」といった日々の関わりの積み重ねが、互いを尊重し支え合う温かな学校風土につながります。今後も、誰もが安心して過ごせる学校づくりを進めてまいります。

副校長 和田 大